

令和7年度

シラバス

～1年間の学習の流れ～



2年生

鈴鹿市立創徳中学校

「シラバス」 Syllabus とは、ギリシャ語に語源を持つ言葉で、「各教科の授業内容や学習の方法、評価の方法

などを記した総合的な学習計画」のことで、各教科・領域の学習において

- ① 基礎基本の定着と活用能力の育成
- ② 基盤の学力を身に付けるための学習習慣の定着
- ③ 表現力（話す・聞く・書く）の育成

をめざし、1年間の授業の流れを見通して、学習計画を作成しました。

このシラバスには、次のような3つの意義があります。

(1) 生徒の皆さんが、より計画的・主体的に授業に取り組めるよう、1年間の学習の「道しるべ」としての意義

(2) 生徒の皆さんはもちろん、保護者や地域の皆様へ、本校の教育の様子についてお知らせする意義

(3) お知らせした教育の様子をもとに、よりよい教育の実現をめざしてご意見をいただくための基礎的な資料としての意義

中学校の3年間は、人間の一生の中で最も成長著しい時期にあたります。特に、今年度は新学習

指導要領が全面実施され、ChromeBook も一人一台配備され、活用していく初年度となります。新たに学

ぶことが増えたり、大事なことが重点化されていきます。私たち教職員は、この大切な時期に、生徒

の皆さんが、このシラバスをよりどころとして、気持ちを一新して意欲的に学習に取り組んでくれること

を心から期待します。また、本校の教育が保護者や地域の皆様にご理解とご支援をいただきながら、

充実・発展していくことを願っています。

第2学年 国語

学習教材および学習の進め方

使用教材	<p>教科書：「現代の国語2」（三省堂） 「中学書写一二三年」（光村図書）</p> <p>副教材：「国語スイッチ2」（正進社） 「つまづかない文法の学習」（新学社） 「学習漢字ノート」（浜島書店） 「新・国語の便覧」（正進社）</p>	持ち物	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ノート 学習漢字ノート ・書写の道具（必要に応じて） ・副教材（必要に応じて）
学習の進め方	<p><確かな学力を身につけるには></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけて、読書、古典、文法、表現、書写、漢字、ことばの意味などの言語文化に親しみ、理解できるように心がけましょう。 ・論理的に考えたり、共感・想像したりする力をつけて、人との関わりの中で伝え合い、自分の考えを確かなものにしましょう。 <p><家庭学習では></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の練習をしましょう。 ・復習に「国語スイッチ2」を使いましょう。 ・本や新聞を読む習慣を身につけましょう。 <p><定期テストでは></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期2回（中間・期末）2学期2回（中間・期末）3学期1回（学年末）合計5回の定期試験を行います。漢字やワーク等で試験範囲を復習しましょう。文法はワークで復習しましょう。 ・学習内容について、知識技能と思考判断表現のバランスを偏りなく勉強しましょう。 		
学習上の注意	<p>「授業はみんなで創るものです！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や態度に気をつけて、集中して授業に取り組みましょう。 ・忘れ物がないようにしましょう。 ・提出物の期限は守りましょう。 ・正しいことばで話すことを心がけましょう。人の意見はしっかり聞き、また相手に伝わる話し方を心がけましょう。 ・ていねいに、見やすいノート作りを心がけましょう。また、板書をただ写すだけでなく、自分の意見や友達の見見も積極的に書き込むなど工夫したノート作りを心がけましょう。 ・百人一首大会を行う予定です。 		

学習内容および評価規準

学習計画				評価にあたって	
	月	単 元 計 画		評 価 の 観 点	評価の方法
一 学 期	4	「見えないだけ」 「アイスプラネット」	中 間	知識技能 ・ 社会生活に必要な話す聞く、書く、読むなどの国語の知識や技能が身についているか。 ・ 日本の言語文化に親しみ、理解することができるか。	定期テスト 提出物 小テスト
	5	「意見を聞き、整理して検討する」 「魅力的な提案をしよう」 「枕草子」 「クマゼミ増加の原因を探る」			
	6	「情報を整理して伝えよう」 「短歌に親しむ」 「短歌を味わう」 「言葉の力」 「類義語・対義語・多義語」	期 末	思考力判断力表現力 ・ 論理的に考える力が身についているか。 ・ 共感したり想像したりする力が身についているか。 ・ 人との関わりの中で伝え合い、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるか。	授業の様子 定期テスト 小テスト 提出物 (ノート・ワークシート・作品等)
	7	「用言の活用」 「メディアの特徴～」			
	9	「ヒューマノイド」 「字のない葉書」 「敬語」 「表現を工夫して書こう」			
	10	「モアイは語る」 「適切な根拠を選んで書こう」 「月夜の浜辺」 「平家物語」			
	11	「徒然草」 「漢詩の風景」 「助詞助動詞」 「君は「最後の晚餐」を知っているか」			
12	「立場を尊重して話し合おう」 「「自分らしさ」を認め合う社会へ」 「書写」 「百人一首」	期 末			
1	「走れメロス」 「話し言葉と書き言葉」				
三 学 期	2	「描写を工夫して書こう」 「鍵」	学 年 末		
3	「国語の学びを振り返ろう」				

第2学年 社会

学習教材および学習の進め方

使用教材	中学生の地理（帝国書院） 新しい社会 歴史（東京書籍） 中学校社会科地図(帝国書院) 社会の自主学習 地理2（新学社） 社会の自主学習 歴史2・3（新学社）	持ち物	【地理】教科書・地図帳 ワーク 【歴史】教科書・ワーク
学習の進め方	<p><確かな学力を身につけるには> 社会は憶える事柄が非常に多くあります。もちろんその知識も大切ですが、用語を暗記するだけでは社会の力はつきません。社会科で大切なのはつながりを考えることです。そのつながりを考える土台として知識が必要になります。最近の入試では資料を読み取ったり、「なぜ」を問うような記述問題が多く出題されます。なによりも暗記だけの勉強では面白くありません。同じ憶えるにしてもつながりがわかり、「なぜか」を理解したほうが憶えやすいし、興味も湧いてきます。「なぜか」と思ったときは、先生に聞いたり、ふりかえりにその疑問を書いたりしましょう。わからないものはそのままにせず、その日のうちにわかるように努めましょう。</p> <p><家庭学習（地理）> 地理でもっとも大事なものは地図です。地理を勉強するときは必ず地図帳を横においてください。わからない地名や国名が出てくれば必ず地図帳で調べます。また、授業があった日には、教科書やプリント、資料を見直し自身でまとめなおしたり、該当部分のワークを解くなどして知識を定着させましょう。</p> <p><家庭学習（歴史）> 歴史では、その時代がどうやって始まり、どう終わったのか？重要な出来事は何か？を考えながら学習することが大切です。授業があった日には、教科書やプリント、資料を見直し自身でまとめ直したり、該当部分のワークを解くなどして知識を定着させましょう。</p> <p>予習では教科書を読んで次の時間の内容のページを読み、重要な言葉などをノートに書きだしましょう。5分でも10分でも読むことで授業での理解度の違いが大きくなります。</p>		
学習上の注意	<p>予習より復習をメインに家庭学習を行いましょう。社会科の授業は週に3回あります。1週間の中で、社会科の勉強をする日を設定し、自身で授業の内容をまとめたり、ワークを何度も解いたりしましょう。</p> <p>授業では積極的に参加し、友達の発表も参考にして、また自分も積極的に発表しましょう。学び合いの授業をすすめていくので、ペアやグループで意見を交わしたり、相談したりする場面が多くなります。積極的に話し合いに参加し、友達の意見を参考にすることで、さらに自分自身の社会的思考力を深めていきましょう。</p>		

学習内容および評価規準

学習計画				評価にあたって		
	月	単 元 計 画		評 価 の 観 点		評価の方法
一 学 期	4	歴史的分野 3章 中世の日本 ②東アジア世界との関わりと社会の変動 地理的分野	中 間 期 末	知識・技能	地理的・歴史的事象の意義や特色，相互の関連を理解し，その知識を身に付けている。	定期テスト ワーク ファイル 小テスト
	5	第3部 日本のさまざまな地域 第2章 日本の地域的特色				
	6	第3章 日本の諸地域 九州地方				
	7	中国・四国地方 近畿地方				
二 学 期	9	中部地方	中 間 期 末	思考・判断・表現	地理的・歴史的事象から課題を見だし，社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し，社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。 地理的・歴史的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	定期テスト 発表内容 ファイル パフォーマンス課題
	10	関東地方 東北地方 北海道地方				
	11	歴史的分野 第4章 近世の日本 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 江戸幕府の成立と対外政策				
	12	産業の発達と幕府政治の動き				
三 学 期	1	第5章 開国と近代日本の歩み	学 年 末	主体的に学習に取り組む態度	地理的・歴史的事象に対する関心を高め，それを意欲的に追究し，よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする	発表内容 ワーク パフォーマンス課題
	2	欧米における近代化の進展 欧米の進出と日本の開国 明治維新				
	3	日清・日露戦争と近代産業				

第2学年 数学

学習教材および学習の進め方

使用教材	教科書 『未来へひろがる数学2』（啓林館） 副教材 『未来へひろがる数学問題集2』（啓林館）	持ち物	左記以外に 授業用ノート ファイル 筆記用具 直定規 作図の用意（必要に応じて）
学習の進め方	<p>確かな学力を身につけるには 数学の学習を「問題を解く」ことだと思いませんか。数学でも、ほかの教科と同じように「どうなるのかな？」と予想したり、実際に実験をして確かめたり、みんなで話し合いをして、考えを深めながら解決したりすることなども、とても大切です。</p> <p>【知っていることをもとにして、新しいことを「発見する力」を身につける】 与えられたことをただ学ぶのではなく、すでに学んだことをもとにして、どんなことがわかるかな、どうすればいいかな、どうなるかなと考えながら、学習に取り組みましょう。すると、新しい性質や考え方を自ら発見できるようになり、いっそう数学のよさやたのしさを実感することができます。</p> <p>【学んだことを「利用する力」を身につける】 数学では、学んでいく中でたくさんの知識や考え方を身につけていきます。知識を増やしていくことは、たくさんの道具を持つことと同じです。しかし、道具を使わなければ意味がありません。この身につけた知識や考え方を数学の問題だけではなく、身のまわりの問題にも活用することでより確かなものになっていきます。</p> <p>【自分の考えを「表現する力」を身につける】 数学に限らず、自分の考えをことばや文字で表現することはとても大切なことです。数学の学習では、自分の考えを伝えようとすることで、筋道立てて考える力が身につきます。</p> <p>【「記録する力」を身につける】 黒板に書かれたことを写すだけではなく、先生の説明やほかの人の発言で、大切だと思ったこと、疑問に感じたこと、自分で考えたことなども書き加えておきましょう。そうすることで、学習したことからをより深く理解できるようになります。</p> <p>家庭学習では たくさん問題を解くことで数学の力は身につけていきます。宿題が出されたら、その日のうちに取り組みましょう。分からなくなった場合は、教科書からよく似た問題を探したり、解答を参考にしたりするなど、「問題の解き方」を理解しましょう。授業中に間違えた問題も同じように学習することで理解を深めましょう。</p>		
	学習上の注意	<p>授業の準備は早めに行い、忘れ物をしないようにしましょう。 ノート・問題集などの提出物は、期限を守って提出しましょう。</p> <p>話し合うときには → 自分の意見は、具体的に分かりやすく伝えよう。 発表するときには → 自信をもって、大きな声で発表しよう。 発表を聞くとときには → ほかの人の意見と自分の意見をくらべながらしっかり聞こう。 まとめるときには → 自分の考えがよく伝わるようにていねいな文字で、図や表なども利用してわかりやすくまとめよう。</p> <p>【ノートの工夫】 ○×をつけるだけでなく、なぜ間違えたのかを書こう。 そして、もう一度解いて、同じ間違いをなくそう。 式だけでなく図もかいて考えよう。 色をうまく使ってわかりやすくしておこう。</p> <div data-bbox="973 1825 1484 1982" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>例えば、分数は2行を使って書くことで見やすく、計算もミスしにくくなります。</p> </div>	

学習内容および評価規準

学習計画			評価にあたって		
	月	単元計画	評価の観点		
			知識・技能	評価の方法	
一学期	4	1章 式の計算 ○ 式の加法, 減法 ○ いろいろな多項式の計算 ○ 単項式の乗法, 除法 ○ 文字式の利用	中間	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	定期テスト, 小テスト, 授業への取り組み姿勢, など
	5				
	6	2章 連立方程式 ○ 連立方程式とその解 ○ 連立方程式の解き方 ○ 連立方程式の利用			
	7	3章 一次関数 ○ 一次関数	期末	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	定期テスト, 小テスト, 授業への取り組み姿勢, レポート, など
二学期	9	○ 一次関数の値の変化 ○ 一次関数のグラフ ○ 一次関数の式を求めること ○ 方程式とグラフ ○ 連立方程式とグラフ ○ 一次関数の利用	中間	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え, 数学を生活や学習に生かそうとする態度, 問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	定期テスト, 授業への取り組み姿勢, レポート, 提出物・宿題への取組, など
	10				
	11	4章 図形の調べ方 ○ 角と平行線 ○ 多角形の角 ○ 三角形の合同 ○ 証明とそのしくみ ○ 証明の進め方			
	12	5章 図形の性質と証明 ○ 二等辺三角形 ○ 直角三角形の合同	期末		
三学期	1	○ 平行四辺形の性質 ○ 平行四辺形になるための条件 ○ いろいろな四角形 ○ 平行線と面積 ○ 四角形の性質の利用	学年末		
	2				
	3	6章 場合の数と確率 ○ 確率の求め方 ○ いろいろな確率 ○ 確率の利用			
	3	7章 箱ひげ図とデータの活用 ○ 箱ひげ図 ○ データを活用して, 問題を解決しよう			

第2学年 理科

学習教材および学習の進め方

使用教材	教科書 未来へひろがるサイエンス2 (啓林館) 副教材 理科便覧 (浜島書店) 理科の学習 (明治図書) Wプリント (五ツ木書房)	持ち物	筆記用具、クロムブック 教科書 理科資料集 ファイル ワーク (解答)
学習の進め方	<p><確かな学力を身につけるには></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を的確に把握し、課題に対して前向きに取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・疑問に思ったことや、分からないことを解決する努力をする。 ・学習課題に対して多面的に観たり考えたりする力をつける。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手なことにも挑戦する。 <ul style="list-style-type: none"> ・分かったこと、課題を解決できたことに自信を持つ。 <p><家庭学習では></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークの問題を解く、授業で習った部分をノートにまとめるなど授業の復習をする。 次に習う新たな用語などを調べたりする。 ○宿題・提出物をしっかり仕上げる。 <p><定期テストでは></p> <ul style="list-style-type: none"> ○範囲はテスト発表時に通知する。 ○授業中に学習したことや配られたプリントをしっかりと復習しておく。 <p><グループ学習について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○理科の授業・実験では、4人～6人班でのグループ活動を行う場合があります。 ○すばやく班の形になり、机はぴったりくっつけましょう。 ○自分で考えても分からないときには「教えて」と言いましょう。 ○「教えて」と言われたら「わかる」ようになるまで教えてあげましょう。 		
学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ○チャイムが鳴るまでに授業の準備を終え、着席する。 ○授業の準備物を忘れない。 ○板書されたこと、気付いたことなど、授業プリントに工夫してまとめておく。 ○その日の授業内容を書いた授業プリントを、次の授業までにノートに書き写しておく。 ○実験レポートに、テーマ、目的、方法(実験図)、結果、考察・反省をしっかりと書き、提出する。 ○先生が授業中話して説明していることをしっかりと聞き、メモを取る。 ○まず自分の考えを理由も考えて持つ。自分の考えを発表する。 ○友達の話や発表をしっかりと聞いて、参考にする。 ○授業プリント・プリントなどの提出は期限を守る。 ○個人学習に余裕があるときは、授業プリントをノートにまとめたり、資料集・ワーク・プリントなどから各自の課題を選択し、自主学習を進める。 		

学習内容および評価規準

学習計画				評価にあたって		
	月	単 元 計 画		評 価 の 観 点	評価の方法	
一 学 期	4	○化学変化と原子・分子 ・物質の成り立ち	中 間	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について、基本的な概念や原則・法則を正しく理解し、知識を身に付けているか。 ・実験器具を正確・安全に使用しているか。 ・実験器具の使用目的を理解しているか。 ・実験観察から導き出されたことをレポートにまとめられるか。また、その結果からわかることを他の人にわかりやすく工夫してまとめられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の様子 ・実技テスト ・定期テスト ・小テスト ・授業プリント ・実験レポート ・調べ学習レポート
	5	・物質の表し方				
	6	・さまざまな化学変化 ・化学変化と物質の質量	期 末			
	7	○生物の体のつくりとはたらき ・生物の体をつくるもの				
二 学 期	9	・植物の体のつくりとはたらき ・動物の体のつくりとはたらき	中 間			
	10	・動物の行動のしくみ				
	11	○電流とその利用 ・電流の性質 ・電流の正体	期 末	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験を行うことができる。 ・規則性や関係性を見出して表現するなど、科学的に探究している。 ・レポートや発表の時に、図や表を用いて他の人にわかりやすくまとめる工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言、発表 ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業プリント ・実験レポート ・調べ学習レポート
	12					
三 学 期	1	・電流と磁界	学 年 末			
	2	○気象とその変化 ・地球をとり巻く大気のように ・大気中の水の変化				
	3	・天気の変化と大気の動き ・大気の動きと日本の四季				
				主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が持った課題に対してどのように取り組もうとしているか。 ・理科に対する関心・意欲を持って、授業に取り組もうとしているか。 ・学習した内容をどれだけ振り返ろうとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言、発表 ・定期テスト ・小テスト ・実技テスト ・授業プリント ・実験レポート ・調べ学習レポート

第2学年 音楽

学習教材および学習の進め方

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の音楽2・3上（教育芸術社） ・中学生の器楽（教育芸術社） ・マイ ソング ・音楽のハーモニー2・3上 	持ち物	使用教材と筆記用具 ファイル（楽譜やプリント等）
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認と持ち物のチェックを毎時間行う。 ・【本時のめあて】を確認し、目標をもって授業に取り組む。 ・個人活動、グループ活動、全体練習などは、目的意識をもって積極的に取り組む。 ・自分のイメージや思いを仲間に自信を持って伝えたり、仲間の意見もしっかりと聴いたりして、それぞれの良さや違いを認め合う。また他の意見を聞きながら考えを深める。 ・振り返りシートに【本時のめあて】が達成されたか、また何を学べて、次に頑張りたいことは何か等を記入する 		
学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に準備物を確認し、チャイムが鳴る前に所定の座席に座る。 ・私語をせず、指導者の話をしっかりと聞く。 ・一人ひとりが協力して、グループ練習（できる範囲）や表現のための活動を行う。 ・プリントなどの配布物は、ファイルで管理する。 ・プリントの提出内容は、評価に加味する。 ・表現活動は、集中して、積極的に意欲的に取り組む。 ・鑑賞は、聴くという態度に気をつけ、適度な緊張感を保つ。 ・マナーを守って落ち着いて取り組む。 		

学習内容および評価規準

学習計画				評価にあたって	
	月	単 元 計 画		評 価 の 観 点	評価の方法
一 学 期	4	・授業の基本マナーの確認	期 末	知識・技能 ・創意を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱、器楽、創作で表している。 ・音楽用語や記号、曲に関する理解ができており、曲想と音楽構造などとの関わりや音楽の多様性について理解している。	・実技テスト ・筆記テスト
	5	・パートの役割と音の重なり 「翼をください」他 心の歌「夏の思い出」			
	6	・パート分けとパートの自主運営 ・鑑賞曲「フーガト短調」			
	7	・合唱曲			
二 学 期	9	・パート分けとパート練習の自主運営 ・ハーモニー、旋律の重なり ・曲想表現の工夫	期 末	思考 判断 表現 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら、良さや美しさを味わって聴くことができるようにする。	・曲の感想 ・演奏に関する自分の考え ・定期テスト ・活動の様子
	10	・指揮と伴奏との合わせ ・同学年・他学年の合唱鑑賞			
	11	・「サンタルチア」 ・鑑賞曲「交響曲第5番ハ短調」			
	12	・鑑賞「アイダ」			
三 学 期	1	・歌舞伎「勸進帳」 ・心の歌「荒城の月」	学 年 末	主体的に学習に取り組む態度 ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現(歌唱・器楽・創作)及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・授業態度(主体的・協働的・授業の積極性) ・ワークや各種プリントの内容や完成度 ・振り返りシート ・筆記テスト
	2	・曲想表現の工夫、旋律を深める(3年生に向けて)			
	3	・創作への取り組み ・2年のまとめと来年度への取り組み			

第2学年 美術

学習教材および学習の進め方

使用教材	教科書 『美術2・3』 光村図書 副教材 美術資料 秀学社 レタリング字典 秀学社	持ち物	左記以外に 絵の具セット（必要時のみ） 色鉛筆 筆記用具 ファイル スケッチブック（美術室保管）
学習の進め方	<p><確かな学力を身につけるには></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で指示される制作のポイントをしっかりと把握し、意欲的に課題に取り組もう。 ・ 自分の良さを伸ばし、上手くいかないことがあっても諦めないで最後まで取り組もう。 ・ 作品制作だけでなく、鑑賞の授業や美術資料などから知識や技能を幅広く身につけ、多様な表現や発想ができるようにしよう。 ・ ワークシートなどで、自分が制作していく作品についてのテーマや構想をしっかりと考えて取り組んでいこう。 ・ 教科書・美術資料・ビデオ教材・生徒作品等を鑑賞し、ワークシートを使って自分の意見や感想を述べられるようにしよう。 ・ 授業開始時には、振り返り用紙に本時の自分のめあてを、授業終了時には授業内容を振り返り、制作上の疑問・反省、次回への取り組み方などを記入しよう。 <p><定期テストでは></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中に配布されたプリントや範囲をしっかりと学習しなおす。 ・ テスト当日の持ち物を忘れないようにする。 		
学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャイム着席・作業の準備・後片付けがしっかりできるようにする。 ・ 授業の準備物を忘れない。 ・ 制作にあたっての説明をよく聞く。 ・ 私語を慎み、制作に集中する。 ・ 作品提出は期限を守る。 ・ 配布された資料などのプリントは、なくさないよう全てファイルにとじるようにする。 ・ 安全面に気をつけて制作する。 ・ 各自の制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かす。 ・ 他の人の作品を鑑賞し、作品の良いところを見つけてこれからの自分の作品に活かせるよう鑑賞する。 		

学習内容および評価規準

学習計画				評価にあたって		
	月	単 元 計 画		評 価 の 観 点		評価の方法
一 学 期	4	オリエンテーション レタリングの復習 デッサンの復習	期 末	知識・ 技能	形、色彩などの表し方や美術文化を理解しているか。 制作意図に応じて材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表現できたか。 材料や用具の特性などから制作の順序や効率などを考えながら見通しをもって表現できたか。 自分の目的を達成し、完成度の高い作品を制作することができたか。	プリント 作品 配色の工夫 着彩の工夫 技法や用具の 使い方の工夫 テスト
	5	デッサンの練習 モダンテクニック 練習				
	6	本番				
	7	ポスターについて				
二 学 期	9	鑑賞 モダンテクニック 本番	期 末	思考・ 判断・ 表現力	対象を見つめ感じ取った形・色彩の美しさや想像したこと から自分の表現したい主題を 考えることができたか。 また、その主題をもとに構成 を工夫し、心豊かに発想し、 構想を練ることができたか。 美術文化に対する見方や感じ 方を深めることができたか。	プリント アイデアスケ ッチ 配色計画 テスト 作品 宿題
	10	タンブラーデザインについて タンブラーデザイン案検討				
	11	タンブラーデザイン作品制作				
	12					
三 学 期	1	鑑賞 タンブラーデザイン作品制作	学 年 末	主体的 に学 習に 取り 組 む 態 度	美術の創造活動に喜びを感じ、意欲的に制作していたか。 課題と向き合い、深く考えて主体的に学習活動に取り組もうとしていたか。 制作に必要な資料や情報を集めて作品に活かそうしていたか。 プリントや作品を遅れずに提出できたか。	準備物 授業の様子 宿題 作品 プリント 毎時間ごとの 振り返り用紙
	2					
	3	1年間の美術科の作品鑑賞と ふりかえり				

第2学年 保健体育

学習教材および学習の進め方

使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新中学保健体育（学研） ・副教材 中学体育実技（三栄） ・学習のプリント（新学舎） 	持ち物	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル ・筆記用具 ・体育館シューズ
学習の進め方	<p><確かな学力を身につけるには></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席順で1番が列の基準になり，体育委員が号令をかけて整列させる。体育係が中心となり，授業の準備をおこなう。 ・まず，授業を進めるにあたって必要なこと（準備・片付け，初歩的なルールなど）を覚える。基本的なこと（動作や技術，戦術など）を練習する。さらに先生や友だちのアドバイスを参考にしながら，自分（たち）の課題（目標）を解決していくために，自ら進んで取り組み，考え・工夫したりしながら協力して練習や試合，記録計測をしていく。 ・全体の動きに機敏性を持たせる為に集団行動の徹底をはかる。 ・年間を通して準備運動を実施し，さらに補強運動をすることによって運動能力を高める。 ・忘れ物をなくし見学でもジャージに着替えさせる。 ・先生の指示をよく守り安全に留意して運動できる。 <p><定期テストでは></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テストを実施することにより，保健分野と体育理論の定着をはかる。 		
学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力を精一杯発揮し，最後まで粘り強く取り組む。 ・日頃から健康管理に努め，欠席・見学をしない。 ・指示をよく聞いて仲間と協力して活動（準備，片付け，練習など）し，周りの安全を考えて取り組む。 ・効果的で安全な活動をするため，基礎的な事柄（服装や身なりを整え，運動種目の規則を守るなど）に注意して取り組む。 ・体操服：夏服期間は半そで，ハーフパンツを着用する。 見学者にはウインドブレーカーの着用を認める。 *体調不良等，特別な理由がある場合は，マイプラやメモで連絡する。 ・保健体育の教科書・図解体育・ファイルは教室のロッカーにまとめておき，いつでも使えるようにする。 		

学習内容および評価規準

学習計画				評価にあたって		
	月	単 元 計 画		評 価 の 観 点		
				評 価 の 方 法		
一 学 期	4	体づくり運動 集団行動 ラジオ体操 体育祭練習	期 末	知 識 ・ 技 能	【体育分野】 ○知識 ・運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、安全の確保の仕方について、言ったり、書き出したりしている。	実技テスト 定期テスト 学習カード
	5	新体力テスト			○技能	
	6	陸上競技（ハードル・高跳び） 器械体操（跳び箱）			・運動の特性に応じた基本的な技術や応用した技能ができる。	
	7	水泳（座学） 保健分野			【保健分野】 ○知識 ・授業を通して、個人生活を中心として科学的に理解したことを言ったり、書き出したりしている。	
二 学 期	9	球技（ティーパー ル、卓球）	期 末	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	【体育分野】 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えを他者に伝えている。	参加状況 授業の取り組み方 学習カード 定期テスト
	10				【保健分野】 ・授業を通して、個人生活における健康に関する課題を発見している。	
	11	武道（剣道） 陸上競技（持久走）			・健康に関する課題の解決を目指して科学的に思考し判断したことを他者に伝えている。	
	12	球技（バドミントン、サッカー） 保健分野 体育理論			【体育分野】 ・運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	
三 学 期	1	ダンス 保健分野 体育理論	学 年 末	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	【保健分野】 ・自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	参加状況 授業の取り組み方 ラジオ体操 学習カード 提出物 発表
	2					
	3					

第2学年 技術・家庭（技術分野）

学習教材および学習の進め方 学習教材および学習の進め方

使用教材	教科書【New 技術・家庭 技術分野（教育図書）】 ワークノート【技術分野ワークノート（教育図書）】	持ち物	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・クロムブック ・学習プリント ・ワークノート
学習の進め方	<p><確かな学力を身につけるには></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の課題をとらえ、課題の解決に向けて取り組もう。 ○わからないところ、できないところを明らかにし、学習活動や実習に取り組もう。 ○グループ学習では、疑問や意見を出し合い、互いに学び合おう。 ○実習では、安全面を考えながら、グループで協力して作業に取り組もう。 ○学習活動について、自己評価したり、互いに評価し合ったりしよう。 <p><家庭学習では></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校で学習したことや身につけた技術を生活に活かそう。 <p><定期試験では></p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業中に学習した内容や実習内容等（教科書、学習プリント等）を復習し、学んだことを定着させよう。 		
学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ○チャイムが鳴るまでに授業の準備をして席に着こう。 ○学習する内容は、学習プリントやデータにまとめよう。 ○授業での発問には、積極的に発表しよう。 ○グループ学習では、疑問や意見が出し合えるように協力して進めよう。 ○実習では、安全面に十分に気をつけて、けがのないように取り組もう。また、互いに教え合いながら協力して取り組もう。 		

学習内容および評価規準

学習計画				
	月	単 元 計 画		
一 学 期	4	情報の技術 1 情報を処理する技術	期 末	
	5	2 コンピュータが情報を処理する仕組み		
	6	3 情報通信ネットワーク 4 情報セキュリティー		
	7	5 情報の技術の工夫 6 実習の手順と安全な進め方		
	9	双方向性のコンテンツの技術 コンテンツの設計の仕方		期 末
	10	設計に沿った双方向性のコンテンツの制作 計測・制御 計測・制御のシステムの設計の仕方		
11	設計に沿った計測・制御システムの製作			
12	生物育成の技術 育てて学ぼう 1 生物を育てる技術 2 実習の安全な進め方			
1	3 生物を育てる技術の工夫	学 年 末		
2	じっくり学ぼう 1 生物育成の計画 2 計画に沿って栽培			
3	まとめ 社会の発展と生物育成の技術			

評価にあたって		
評 価 の 観 点	評価の方法	
知識・技能	情報通信ネットワークの構成と情報を利用するための基本的な仕組みについて理解している。 安全・適切にプログラムの制作、動作確認ができる。 知的財産、UDの観点から製作品を見直すことができる。 教科書をよく読み、生物育成の基礎的な技術の仕組みを理解している。 安全・適切に育成環境の調整や、作物の管理・収穫等ができる	学習プリント 学習活動 実習 製品 定期テスト
	課題を解決するために条件を踏まえて適切なメディアを選択し、構想を具体化して設計や計画をまとめている。 設計・計画に照らして制作の過程を評価・改善および修正している。 課題を解決するために、条件を踏まえて適切な育成技術を選択して育成計画を具体化してまとめている。 育成計画に照らして育成の過程を評価、改善および修正している。	学習プリント 学習活動 実習 製品 定期テスト
主体的に学習取り組み態度	自らの問題解決とその過程を振り返り、より良いものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正しようとしている。 進んで生物育成や情報の技術とかかわり、主体的に理解し、技能を身につけようとしている。	学習プリント 学習活動 実習 製品 定期テスト

第2学年 技術・家庭（家庭分野）

学習教材および学習の進め方

使用教材	教科書 NEW「技術・家庭」 家庭分野 東京書籍	持ち物	教科書 ファイル
学習の進め方	<p><確かな学力を身につけるには></p> <ul style="list-style-type: none"> ○わからないところ、できないところを明確にし、学習・実習をしよう。 ○授業で学習したことを家庭で実践するなど、反復学習しよう。 ○自分の良いところを伸ばし、苦手とすることにあえて挑戦しよう。 ○できるようになったこと、自分の成長したことに自信をもとう。 <p><家庭学習では></p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭での仕事を手伝おう。 特に長期の休みに、家族の一員としていろいろな家庭での仕事を手伝うこと。夏休み・冬休みの課題にていねいに取り組もう。 <p><定期テストでは></p> <ul style="list-style-type: none"> ○テスト範囲は、テスト発表時に通知します。 ○授業中に学習したことをしっかり復習しておこう。 ○学習内容をよく復習しておこう。 		
学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ○チャイムが鳴るまでに授業の準備をして席に着く。(持ち物は机上に揃えて出しておく。) ○黒板に書いたことや気づいたことをプリントなどに工夫してまとめよう。 ○授業での発問やグループ活動などには、積極的に参加して発表しよう。 ○プリント・課題等の提出物は期日を守ろう。 ○調理室・被服室で授業を行う場合は、チャイムが鳴るまでに教室移動し準備しよう。 ○実習においては、目的と方法を理解し工夫して、けがのないように十分注意して取り組もう。 ○班活動では班員で仕事を分担し、能率よく協力して作業を行ったり、話し合いをしたりしよう。 		

学習内容および評価規準

学習計画			評価にあたって							
	月	単元計画		評価の観点	評価の方法					
一学期	4	A編 家族・家庭生活 2章 幼児の生活と家族	期末	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の基本的な機能および家庭について理解できたか。 生活に必要な衣食住について理解し技能を身に付けたか。 幼児、高齢者について理解し技能を身に付けたか。 環境に配慮したライフスタイルの確立について基礎的な理解をし、技能を身に付けたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト ワークシートの内容 発表、発言 実習・課題の取り組み方 作品 				
	5	1 幼児の体の発達を知ろう 2 幼児の心の発達を知ろう 3 幼児の生活習慣の身につけ方を知ろう								
	6	4 幼児の生活の特徴を知ろう 5 幼児の遊びと発達のかかわりを知ろう 6 幼児の発達を支える大人の役割を考えよう								
	7	7 幼児とふれ合ってみよう 食育								
	9	B編 調理と食文化 1 食品の選択と購入について考えよう					期末	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生活課題について他の生活事象と関連付け、多角的に捉え解決策を考えることができたか。 実習や観察、交流活動の結果等について考察し、論理的に表現することができたか。 他者の意見との相違点や共通点から、計画・実践・について評価・改善することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各活動への取り組み方 ワークシートの内容 実習・課題の取り組み方 作品
	10	2 購入した食品を適切に保存しよう 3 調理の基礎を知ろう								
	11	4 肉を調理しよう 5 魚を調理しよう 6 野菜を調理しよう								
12	7 地域の食文化を知ろう 8 和食の調理をしてみよう									
1	A編家族・家庭生活 1章家族・家庭や地域とのかかわり 1 家族の一員としてできることを考えよう 2 家族関係をよりよくする方法を考えよう	学年末	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々と関わり、協働しようとする態度を養っていたか。 生活を楽しみ、豊かさを味わい生活をよりよくしようとする態度を養っていたか。 日本の生活文化を継承しようとする態度を養っている。 将来の家庭生活や職業とのかかわりを考え、学習に取り組むことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 各活動への取り組み方 ワークシートの内容 実習・課題の取り組み方 作品・課題の提出や記入状況 忘れ物 発表、発言 					
2	3 家族生活と地域とのかかわりを知ろう 4 地域の人々と協力・協働しよう									
3	2 子どもの健やかな成長のために									

第2学年 英語

学習教材および学習の進め方

使用教材	教科書：NEW HORIZON（東京書籍） 副教材：ジョイフルワーク（新学社） Talk and Talk（正進社）	持ち物	・教科書 ・ファイル（青色） ・ジョイフルワーク ・Talk and Talk ・ノート
学習の進め方	<p><確かな学力を身につけるには></p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業に集中し、教師の説明や話、指示をしっかりと聞き、授業の中で覚えるくらいの高い意識をもって授業に臨もう。そのために恥ずかしがらずに大きな声で音読する、教師の発音の真似をする、声に出して覚えるということを習慣化しよう。 ○ペアワーク・グループワークに意欲的に取り組み、実際に英語を書いたり話したりする学習を通して基礎基本を定着させよう。 ○授業で理解できたことと、理解できなかったことを、自分の中で明確にし、理解できなかったことは質問などをして、その日のうちに解消する努力をしよう。 ○習った知識を用いて積極的に自己表現（話したり書いたりする）にチャレンジしましょう。英語の学習はミスを繰り返すことで知識・技能が定着していきます。 <p><家庭学習では></p> <ul style="list-style-type: none"> ○予習として、単語調べ、なぞり書き、基本文写しをノートにしよう ○復習として「単語・本文・基本文が読めて、意味が言え、書ける」ように何度も反復練習しよう。特に、単語は英語学習の土台となります。単語リストを繰り返し練習して語彙を増やそう。 ○宿題は必ずその日のうちにしよう。ワークは答え合わせもしよう。 ○英語の力（学力）を向上させるためには家庭学習は不可欠です。授業で配付した「自主学習のすすめ」をよく読み、自主学習を進めましょう。（語順一覧表を活用して英語の語順を理解する。） <p><定期テストでは></p> <ul style="list-style-type: none"> ○普段から確実に単語・本文・基本文法を復習しておこう。そして、学んだ基礎基本の表現を用いて自分自身について英語で表現できるようにしておこう。 ○テスト期間では試験範囲のユニットを計画的に、確実に見直そう。 		
学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の準備を忘れない。 ○しっかりと声を出して単語や本文を読む練習をする。 ○ペア・グループワークなどの活動では教え合い、互いに高め合っていくこと。 ○ワークやノートの提出期限を守る。 ○授業以外の時間でも間違いをおそれず積極的にALTに話しかける。 		

学習内容および評価規準

学習計画			
	月	単元計画	
一学期	4	0 My spring Vacation 過去形を用いて思い出を伝える	中間
	5	1 What can we experience on a trip? 未来形を用いてこれからの予定や意思を伝える	
	6	2 What is local food? 接続詞を用いて時や条件、理由を伝える	期末
	7	3 What kind of job are you interested in? 不定詞を用いて自分の将来像や夢について伝える	
	7	Stage Activity 1 自分の好きな日本食について特徴や好きな理由について書く	
二学期	9	4 What is important in a homestay? 助動詞や動名詞を用いて習慣・マナー・ルールについて伝える	中間
	10	5 What design is good for everyone? 疑問詞+to を用いてどのようにしたらよいかなどについて伝える	
	11	6 How can we make a good presentation? 複数ものを比べた結果を伝える	期末
	12	Stage Activity 2 学校生活について説明する	
三学期	1	7 What are World Heritage sites and their problems? あるものについて事実や行為者を明らかにして伝える	学年末
	2	Stage Activity 3 自分の立場を明確にして、意見を述べる	
	3		

評価にあたって		
	評価の観点	評価の方法
知識・技能	○単語の発音の違いなど聞き分けたり、文構造や文字、符号などを使い分けたりする基礎的な知識を身につけているか。 ○場面や状況にふさわしい基本的な表現を知っているか。 ○各単元に関わる文化や生活について理解して、それぞれの違いについて理解できているか。 ○英語のイントネーションや区切りなどを用いて音読したり話したりすることができるか。	・先生・生徒とのコミュニケーションの様子 ・小テスト ・定期テスト
	思考・判断・表現	○英文を聞いたり、読んだりして内容が正確に理解できるか。 ○学習した基本的な表現を用いて話したり、書いたりできるか ○学習した題材について自分の意見や考えを適切に言ったり、書いたりできるか。
主体的に学習に取り組む態度	○自ら積極的に学習をしているか。 ○英語のコミュニケーション活動に積極的、協力的また興味を持って取り組んでいるか。 ○学んだ英語を進んで使ったり、意欲的に発言や質問をしたりしているか。	・先生・生徒とのコミュニケーションの様子 ・宿題・課題の取組状況や提出物 ・振り返りシート ・小テスト

第2学年 道徳

学習教材および学習の進め方

使用教材	教科書：「あすを生きる2」（日本文教出版）	持ち物	・教科書 ノート 筆記用具
学習の進め方	<p><確かな道徳的価値を身につけるには></p> <ul style="list-style-type: none">・中学校の中堅の学年として、多面的なものの見方や考え方があることを理解し、違いを認め尊重しあいながら学習を進める。・教科書と付属のノートのほか、プリント等を使います。		
学習上の注意	<ul style="list-style-type: none">・自分の意見をしっかりと持ちましょう。その上で、友達の見聞を聞きましよう。対話や議論を通して、人として他者とともによりよく生きる方法をともに考えましよう。・さまざまな場面で主体的に判断ができるように、道徳的な価値観を身につけましよう。		

学習内容および評価について

学習計画		
	月	単元計画
一 学 期	4	「おじさん役と私」 「おばあちゃんのくれた“おまじない”」 「挨拶は言葉のスキンシップ」
	5	「初心」 「五月の風—カナ—」 「五月の風—ミカ—」
	6	「リスペクト アザーズ」 「名乗り出なかった友」 「戦争を取材する」 「時を超えて—檜野で生まれたきずな—」
	7	「父の決意」 「和樹の夏祭り」
	9	「他人の靴を履いてみる」 「ヨシト」 「ネット将棋」 「樹齢七千年の杉」
	10	「自分の弱さと戦え」 「小さな工場の大きな仕事」 「上勝から世界を変える」 「美しい鳥取砂丘」
	11	「行動する建築家 坂茂」 「夜のくだもの屋」 「アフガニスタンの人々と共に」 「制服は誰のもの」
二 学 期	12	「命を見つめて—猿渡瞳さんの六百四十六日—」 「行く年、来る年」
	1	「コトコの涙」 「マークはなんのために？」 「最後のパートナー」
	2	「避難所にて」 「よみがえれ、えりもの森」 「足袋の季節」 「恋する涙」
三 学 期	3	「包む」 「きいちゃん」

評価は各学期、文章評価で行います。